

[大学情報入試の概要]

# 1 大学情報入試の概要



角田博保 電気通信大学



## 教科「情報」の歴史

大学情報入試に係る事項の概要について解説する。なお、個別入試についてはほかの解説記事を参照されたい。

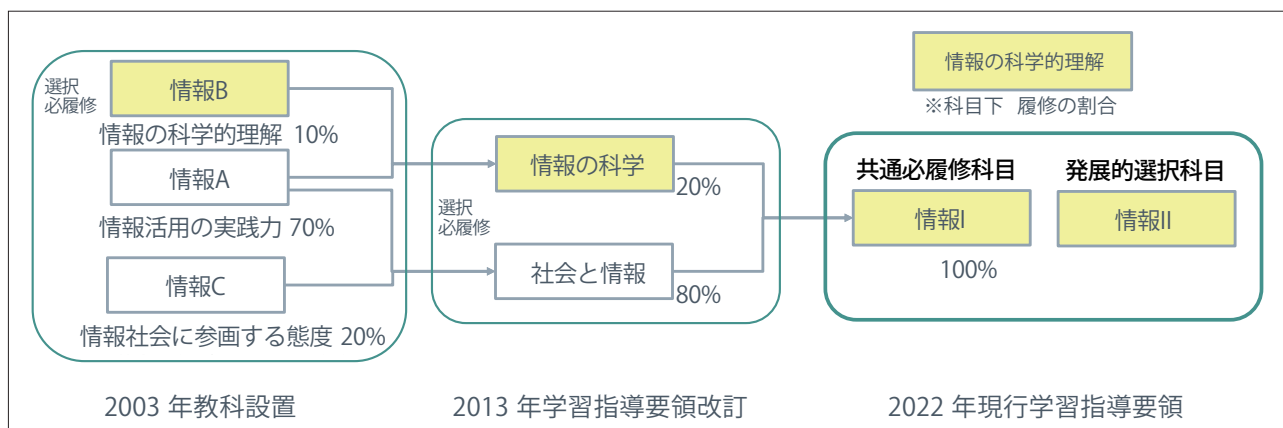
まずは、高等学校の情報科について述べることにする。単に情報科といっても、高等学校には共通教科情報科と専門教科情報科がある。この小特集で対象としているのは共通教科情報科である。以降、単に情報科と略すことにする。

情報科が高等学校に初めて現れたのは、1999年3月の高等学校学習指導要領改訂においてであり、普通教科「情報」として必修教科となった。科目としては、「情報A」「情報B」「情報C」が設けられ、いずれか1科目(2単位)を必修とし、2003年度より実施された。

2009年3月に次期改訂が行われて、共通教科情報科となった。科目は「社会と情報」「情報の科学」のいずれか1科目(2単位)を必修とし、2013年度より実施された。

最新の改訂は2018年3月であり、共通教科情報科は必修科目の「情報I」(2単位)と選択科目の「情報II」(2単位)となり、2022年度から実施となった(図-1)。

学習指導要領は9年あるいは10年ごとに改訂されてきた。2003年度から実際に高等学校で情報の授業が始まったのですでに20年に及ぶ経験を得ている。情報科ができたことにより、入学試験として情報を課する大学も現れ、2003年度入学生が卒業する2006年度には15大学が個別試験を行ったが、それ以降、大幅に増えることはなかった。やはり3科目の選択必修となっていた



■図-1 情報科の変遷

ことも影響していたと思われる。2013年度からは2科目の選択となったが、履修の偏りが大きく、「社会と情報」が8割の履修となっていた。時代の流れから、プログラミングや情報セキュリティ等、情報の科学的な理解の重要性が指摘されており、この履修の偏りを解消するためにも、現学習指導要領では、情報の科学的理解に重点をおくように、1科目の必修科目「情報I」が設けられ、さらに発展的選択科目として「情報II」が置かれた。1つの必修科目となることにより、すべての生徒が「情報I」を学ぶことになる。これにより、大学の入学試験が設定される準備が整ったと言える。

## 共通テストに「情報」が入る

高大接続については、2014年12月12日の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について」に基づいて2015年1月に「高大接続改革実行プラン」が始まり、高大接続システム改革会議にて議論がなされ、その最終報告が**2016年3月31日**に公表された。

最終報告の＜2. 大学入学選抜改革 (3) 「大学入学希望者学力評価テスト (仮称)」の導入 ウ 具体的な仕組み①対象とする教科・科目等＞において、“次期学習指導要領における教科「情報」に関する中央教育審議会の検討と連動しながら、適切な出題科目を設定し、情報と情報技術を問題の発見と解決に活用する諸能力を評価する”と初めて「情報」にかかわる科目の評価テストが題材として挙げられた。(現大学入学共通テストは当時は大学入学希望者学力評価テスト (仮称) と呼ばれていた)。

その後、**2016年12月21日**の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」により、情報科の新しい科目は、「情報I」「情報II」と呼ばれることとなった。

**2017年7月13日**に文部科学省から、「大学入学

共通テスト」実施方針が公表された。ここで、従来の大学入試センター試験は大学入学共通テストと名前が変更された (2021年度入学選抜より実施)。また、「次期学習指導要領において高等学校の教科・科目が抜本的に見直される予定であることを踏まえ、平成36年度<sup>☆1</sup>以降は教科・科目の簡素化を含めた見直しを図る」との予告があった。名称変更とともに、大きな変更点は (1) 国語、数学への記述式問題の出題、(2) 英語では認定試験を使えるようにするというものであった。また、「CBTの導入については、引き続きセンターにおいて、導入に向けた調査・検証を行う。平成29年度については、問題素案の集積方法の検討及び集積等を行う。この成果も踏まえ、平成36年度<sup>☆1</sup>以降の複数回実施の実現可能性を検討する」とのことであった。

2018年3月に学習指導要領が改訂された。その直後の**2018年5月17日**に、**第16回未来投資会議**にて重要な発言がなされた。文部科学大臣より「たとえば必修化される情報Iを英語や数学と同様、これは各大学の判断になるが、大学入学共通テストの科目として活用できるように、検討を進めたいと思っている」との発言があり、また、内閣総理大臣より、「大学入試においても、国語、数学、英語のような基礎的な科目として、情報科目を追加、文系、理系を問わず理数の学習を促していく」との発言があった。これにより共通テストに科目「情報」が取り入れられる可能性がかなり確実となってきた。

**2018年6月15日**に閣議決定された「**未来投資戦略2018『Society 5.0』『データ駆動型社会』への変革**」では、“大学入学共通テストにおいて、国語、数学、英語のような基礎的な科目として必修科目「情報I」(コンピュータの仕組み、プログラミング等)を追加する。平成36年度<sup>☆1</sup>から必修科目「情報I」などの新学習指導要領に対応した出題科目とすることについて本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示すとともに、コンピュータ上で実施する

<sup>☆1</sup> 実際には令和6年度(2024年度)



**小特集**  
Special Feature

試験（CBT）などの試験の実施方法等について検討を進める”と書かれている。

この決定に応じてか、2018年7月17日に大学入試センターは「教科「情報」におけるCBTを活用した試験の開発に向けた問題素案の募集について」により問題素案を募集した。本会もこれに応じ、問題素案を提出した。このように着々と作業は進められていた。

**2019年5月23日の教育再生実行会議第11次提言**では、「国は、大学入学共通テストにおける『情報I』の取り扱いについて、出題科目への追加をCBTによる実施も含め検討する」とある。

ところが、共通テストの実施方針のうち、記述式による解答法と英語民間試験についてクレームが出されてきた。2019年10月6日の朝日新聞にて、河合塾との共同調査によると、国語の記述式問題や英語民間試験などについて改革の行方に不安を感じている大学や高校が多いことが分かったとの報道がなされた。その後、2019年11月1日の文部科学大臣の閣議後記者会見にて、2021年1月実施の共通テストにおいて、英語民間試験の実施を見送ると表明、また、2019年12月17日には、記述式問題は実施せず、導入見送りとするとの表明があった。（その後、2021年7月30日に2025年1月以降の共通テストにおいても英語民間試験と記述式を断念すると正式に公表された）。このように実施が覆ることもおこり得る。

しかしながら、**2020年10月22日の朝日新聞**にて“2024年度以降に行われる大学入学共通テストの出題について、大学入試センターが新たな教科「情報」を新設し、現在の6教科30科目を7教科21科目に見直す素案をまとめた。大学や高校の意見を聞いた上で、今年度内に公表する方針。関係者への取材で分かった”との報道がなされた。こういう状況の中、大学入試センターは着々と事を進め、**2020年11月24日**に試作問題（検討用イメージ）を公開した。

教科書の検定は2020年中に行われ、2021年3

月には各高等学校に教科書見本が配布された。さらに、各高等学校は2021年5月ごろまでにどの教科書を採用するか決定することとなっていた。

そして、**2021年3月24日**、大学入試センターから「平成30年度告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目について」が公表され、“出題科目は『情報』の1科目とする。『情報』は「情報I」の内容を出題範囲とする。また、情報で1つの試験時間帯とする”と明記された。

これで共通テストに「情報I」が出題されることは確定したと言える。入試科目となるかどうかは、教科書の選定に大いに影響するので、ぎりぎりのタイミングと言える。

また、2021年7月30日には「令和7年度大学入学者選抜にかかわる大学入学共通テスト実施大綱の予告」が出され、**2021年9月29日**には「令和7年度大学入学者選抜にかかわる大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺）」が出され、情報の試験時間を60分とした。また、「情報I」については、「社会と情報」「情報の科学」に対応する経過措置を講じることとした。経過措置科目を出題するか、「情報I」の試験問題の中に選択解答できる問題を出題するかは検討するとの発表があった。

**2021年12月17日**には、大学入試センターより、「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト『情報』の出題方法について」が公表され、「情報I」とは別に、現行の教育課程の「社会と情報」および「情報の科学」の内容を出題範囲とする経過措置科目「旧情報（仮）」を出題すると述べられている。

**2022年11月9日**には、大学入試センターから、「令和7年度大学入学共通テストの問題作成の方向性及び試作問題等について」が公表され、情報は「情報I」にて60分、100点となった。また、新教育課程を履修していない入学志願者に対しては、旧教育課程による出題・科目が用意され、「情報」については「旧情報（仮）」が同じ試験時間、配点で提

## 小特集 Special Feature

供されることとなった。

その後、**2023年6月2日**には「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」が出され、「旧情報（仮）」が正式に「**旧情報**」として提供されることが報告された。

これで一件落着である。ただし、共通テストで「情報I」が出題されるからといって、実際にその科目の受験生がいなければなんともならない。それには、各大学がこの科目を受験科目としなければならない。

国立大学については、国立大学協会が**2022年1月28日**に「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」を発表し、「2024年度に実施する入学者選抜から、すべての国立大学は、「一般選抜」においては第一次試験として、高等学校等における基礎的教科・科目についての学習の達成度を測るため、原則としてこれまでの「5教科7科目」に「情報」を加えた**6教科8科目**を課す」ということとなった。2022年度入学の高校生からは、情報の授業が持つ意味が大きくなる。

現時点で、ほとんどの国立大学、公立大学は「情報I」の扱いを公表するに至っている。ただし、「情報I」の配点は100点であるが、ほかの配点100点の科目と比べて低い比率で総合点に加える大学の方が多い傾向である。またその比率がすでに公表されている大学は多くはない。この章のまとめを図-2に示す。

## 情報入試問題の歴史

「情報I」「情報II」の授業が始まり、共通テストにも「情報I」が出題され、国立大学も原則「情報I」を課するということが、受験科目としての重みが増ったことになる。後はどういう試験問題が出されるか、どう対応していくかが問われる。過去も大学入試に情報科目が使われてはいるが、2025年からは規模が大幅に拡大することになる。

ここからは、大学入試センターが提供するテスト問題について解説する。**2020年11月24日**に「試作問題（検討用イメージ）」が出された。これは具

2016-3-31	高大接続システム改革会議最終報告 「情報」に係る出題科目が題材として挙げられた
2016-12-21	中央教育審議会答申 情報科の新しい科目は、「情報I」「情報II」
2017-7-13	大学入学共通テスト実施方針 2024年度以降は教科・科目の簡素化を含めた見直しを図ると予告
2018-5-17	第16回未来投資会議 文部科学大臣「情報Iを共通テストの科目として活用できるよう検討を進めたい」 内閣総理大臣「大学入試においても、基礎的な科目として、情報科目を追加」
2018-6-15	「未来投資戦略2018「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革」 2024年度から「情報I」を出題科目とすることについて本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示す
2019-5-23	教育再生実行会議第11次提言 国は、共通テストにおける『情報I』の取り扱いについて、出題科目への追加をCBTによる実施も含め検討する
2020-10-22	朝日新聞の報道（関係者への取材から） 2024年度以降に行われる共通テストの出題について、大学入試センターが教科「情報」を新設し、現在の6教科30科目を7教科21科目に見直す素案をまとめた。大学や高校の意見を聞いた上で、今年度内に公表する方針
2021-3-24	大学入試センター 令和7年度共通テストから出題科目は『情報』の1科目、『情報』は「情報I」の内容を出題範囲とし、情報で1つの試験時間帯
2021-9-29	令和7年度大学入学共通テスト実施大綱の予告（補遺） 情報の試験時間は60分。「社会と情報」「情報の科学」に対応する経過措置を検討
2021-12-17	令和7年度大学入学共通テスト「情報」の出題方法について 経過措置科目「旧情報（仮）」を出題する
2022-1-28	国立大学協会「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」 2024年度に実施する入学者選抜から、全国立大学は「一般選抜」では第一次試験として、原則として6教科8科目を課す
2022-11-9	大学入試センター「令和7年度大学入学共通テストの問題作成の方向性及び試作問題等について」 情報は「情報I」にて60分、100点。旧教育課程用には「旧情報（仮）」
2023-6-2	令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱 「旧情報（仮）」から「旧情報」へ

■図-2 共通テストの流れ



## 小特集 Special Feature

体的なイメージを共有するために大学入試センターにて用意したもののことで、いわゆるたたき台として提供された。「情報I」の教科書は提供時点では検定中なので、教科書との照合はできていない。問題は大問8つからなり、学習指導要領に示される「情報I」の4つの領域に対応するように作題されている。

引き続き、**2021年3月24日**には、「サンプル問題」が提供された。意図としては「試作問題（検試用イメージ）」と同様である。今回は大問3つである。こちらも4つの領域を扱っている。

**2022年11月9日**には「試作問題」が提供された。マークシートで答えることを想定した、実際のテストに近い形で構成されている。配点も100点満点とし、旧情報（仮）との共用を考えた出題となっている。かなり実施状況を意識した構成に近づけていると思われる。また、「共通テスト用プログラム表記」を例示している。

大学入試センターが**2023年6月9日**に発表した「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」によれば、問題作成の基本的な考え方は、1. 大学への入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成、2. 各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視した問題の作成、3. 多様な入学志願者の学力を適切に評価する問題の作成となっている。また、「情報I」に関しては、「問

題の作成にあたっては、社会や身近な生活の中の題材、及び受験者にとって既知ではないものも含めた資料等に示された事例や事象について、情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題などとともに、問題の発見・解決に向けて考察する力を問う問題も含めて検討する。プログラミングに関する問題を出題する際のプログラム表記は受験者が初見でも理解できる大学入試センター独自の表記を用いる」としている。

情報の試験問題としては、プログラミングや知識を問う問題だけではなく、学習指導要領で示される4領域にまんべんなく対応し、思考力・判断力・表現力をはかれる問題となるべきであろう。解答の定型パターンを暗記するといった、いわゆる受験テクニックによって楽に解答できるような問題であってはならない。カバーする範囲、難易度については、出題側での適切な説明が必要である。この用語はどのレベルまで学習すべきかを表した知識体系にあたるものが共有されるようになることが望ましい。本会の情報入試委員会では高等学校の教科書に現れる用語について現在検討を行っているところである。

(2023年11月3日受付)

■角田博保（正会員） kakuda@acm.org

1974年東京工業大学理学部情報科学科卒業。2016年電気通信大学定年退職。2023年より電気通信大学客員教授。理学博士（東京工業大学）。本会情報処理教育委員会副委員長、情報入試委員会副委員長。

